

26 愛防第 97 号
平成 26 年 9 月 4 日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

発生予察情報について（送付）

病虫害発生予察注意報（第 3 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

平成 26 年度 病虫害発生予察注意報（第 3 号）

平成 26 年 9 月 4 日
愛 媛 県

病虫害名 果樹カメムシ類
（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
対象作物 かんきつ、かき等

1 発生地域 県下全域

2 発生程度 多

3 注意報発表の根拠

- (1) 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数は、8 月に入り変動はあるものの、平年値を大きく超えている（図 1）。
- (2) 本年のヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの寄生虫数は平成 22 年からの調査で最も多くなっている。また、本虫のヒノキ球果からの離脱目安とされる口針鞘数が 1 球果当たり平均 25 個を超える調査地点は 2 か所で認められている（表 1）。
- (3) 気象に関する 1 か月予報（8 月 28 日発表）では、気温は平年並、降水量は平年並か少ない見込みとされ、本虫の園地飛来は今後も継続するものと予想される。
- (4) かんきつ、かきの一部園地において、落果等の被害を確認している。

4 防除上の注意

- (1) カメムシ類の飛来時期、飛来量は地域、園地により異なるため、早期発見に努める。特に台風の通過後は、園地へ多飛来する事例が多いため、見回りを強化する。
- (2) 園地への飛来は、曇天で夜温があまり下がらない日に多くなる。
- (3) 主に山林から飛来するため、山林に近い園地で被害が早く発生し、飛来量も多くなる傾向にある。
- (4) 園内に飛来した成虫は集合フェロモンを放出し、同種の成虫をおびき寄せるため、飛来初期の薬剤防除を徹底する。
- (5) 飛来は日没 30 分後～3 時間後に多くなるので防除は夕方の実施が効果的である。
- (6) 薬剤は登録内容に応じて使用する（表 2）。防除に当たっては、農薬使用基準（収穫前日数、使用回数等）を遵守し、風向き、薬液の散布圧等に注意し、周辺作物への飛散防止、周辺環境（魚・蚕・ミツバチなど）への配慮を徹底する。
- (7) 飛来が続く場合は継続的な防除が必要であるが、ハダニ類においては薬剤の影響によるリサージェンスが起こる可能性があるため、散布後の発生には十分注意する。

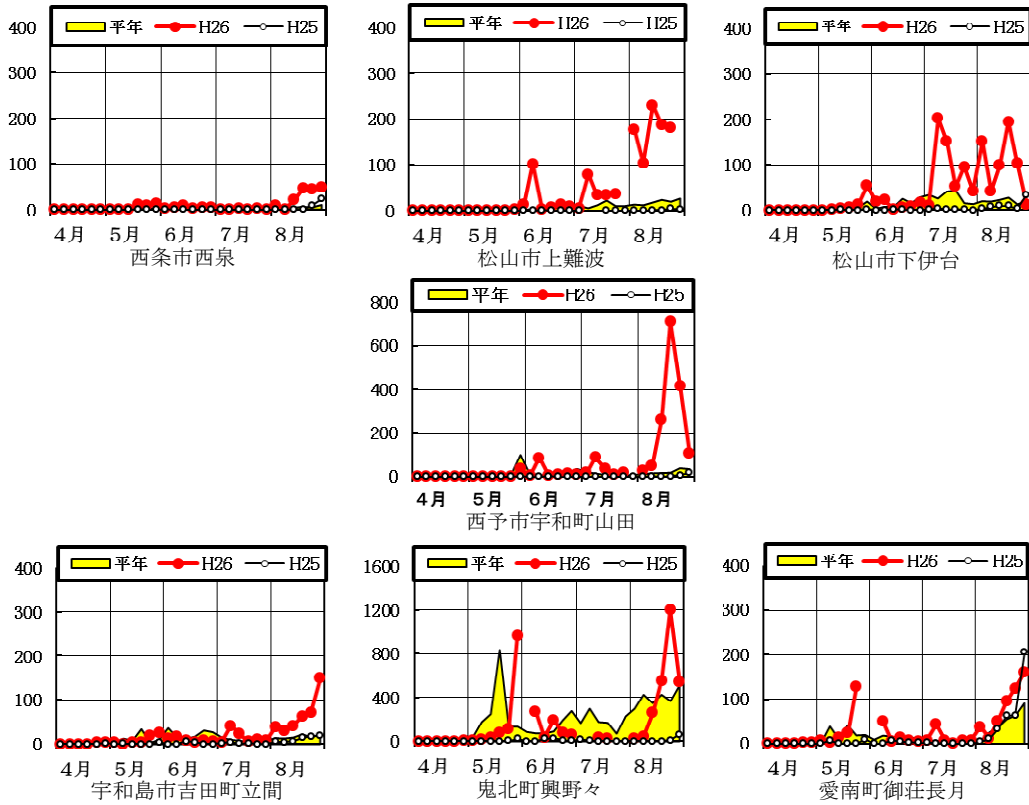


図1 各地の予察灯における果樹カメムシ類の半月当たりの誘殺数(頭)
 調査対象種:チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ。
 折れ線グラフの不連続は欠測期間を示す。

表1 ヒノキ球果における果樹カメムシ類の寄生虫数と口針鞘数(8月調査)

調査項目	平成26年	25年	24年	23年	22年
チャバネアオカメムシ虫数	2.58	2.00	0.75	0.58	0.92
球果1果当たり平均口針鞘数	12.64	3.80	15.98	4.84	18.91
ヒノキ離脱調査地点数	2	0	2	0	3

毎年12地点を調査。チャバネアオカメムシ虫数は、現地にて10回すくい取り(ビーティング法)した虫数。
 ヒノキ離脱調査地点数は、口針鞘数が平均25個/球果を超える地点数。

表2 果樹カメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	注1) 系統名	薬剤名	濃度	毒性		使用時期	使用回数	防除効果 注2)		
				人毒	魚毒			注3) 接触効果	注4) 残効性	
かんきつ	ネオニコ	アドマイヤーフロアブル	2,000	劇物	A	収穫14日前まで	3回以内	B	A	
		ダントツ水溶剤*	4,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A	
		アクトラ顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫14日前まで	3回以内	B	A	
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A	
		モスピラン水溶剤*	2,000	劇物	A	収穫14日前まで	3回以内	B	A	
		モスピラン顆粒水溶剤*	2,000	劇物	A	収穫14日前まで	3回以内	B	A	
		モスピランSL液剤*	2,000	劇物	A	収穫14日前まで	3回以内	B	A	
		合ピレ	MR. ジョーカー水和剤	2,000	普通	A	収穫14日前まで	2回以内	A	A
			ロディー乳剤	2,000	劇物	C	収穫7日前まで	4回以内	A	B
			テルスター水和剤	2,000	普通	C	収穫前日まで	3回以内	A	A
テルスターフロアブル*	3,000		劇物	C	収穫前日まで	3回以内	A	A		
かき	ネオニコ	アドマイヤー水和剤	1,000	劇物	A	収穫7日前まで	3回以内	B	A	
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫前日まで	3回以内	B	A	
		アクトラ顆粒水溶剤	2,000	普通	A	収穫3日前まで	3回以内	B	A	
		モスピラン水溶剤*	2,000	劇物	A	収穫前日まで	3回以内	B	A	
		モスピラン顆粒水溶剤*	2,000	劇物	A	収穫前日まで	3回以内	B	A	
		ダントツ水溶剤*	4,000	普通	A	収穫7日前まで	3回以内	B	A	
		合ピレ	MR. ジョーカー水和剤	2,000	普通	A	収穫14日前まで	2回以内	A	A
			アグロスリン水和剤	2,000	劇物	C	収穫前日まで	3回以内	A	B
			テルスター水和剤	1,000	普通	C	収穫14日前まで	2回以内	A	A
			テルスターフロアブル*	3,000	劇物	C	収穫3日前まで	2回以内	A	A
他	他	ロディー水和剤	1,500	劇物	C	収穫7日前まで	3回以内	A	B	
		クラブフロアブル*	2,000	普通	A	収穫7日前まで	2回以内	A	A	

注1) ネオニコ:ネオニコチノイド系、合ピレ:合成ピレスロイド系、他:その他

注2) 「接触効果」「残効性」のデータは、主に「果樹カメムシ おもしろ生態とかしい防ぎ方」(堤, 2003)を参考にした。
 なお、※は他の試験例を参考にした。

注3) A:散布1日後の死虫率がほぼ100%、B:散布1日後に生存虫がある

注4) A:5日以上、B:3日以上

* 農業を使用する場合には、最新の登録内容を確認してください。